

日本セーリング連盟 新年会および定期表彰式を開催

JSAF Class/Club of the Year 2023 presented by ENEOS も同時表彰

公益財団法人日本セーリング連盟の2023年度定期表彰式が1月27日、東京・新宿区の日本青年会館ホテルで開かれ、次の方々が表彰されました。

またセーリングを始める機会の創出、次世代育成を通じた心身ともに健全な社会づくり、安全にスポーツに取り組める環境づくりなどセーリング界発展への取り組みをするヨットクラブやセーリングクラブ、またクラス協会などの団体を讃えるため、ENEOS株式会社のご協力により今年度創設された「JSAF Class/Club of the Year 2023 presented by ENEOS」賞も同会場で表彰されました。

2023年度 日本セーリング連盟 定期表彰 受賞者一覧

表彰区分	受賞者氏名 (継承略)	受賞理由
勲功賞	故 戸田 邦司	永年にわたりヨットや海洋スポーツ、海洋レジャーの振興発展に寄与し、日本ヨット協会と日本外洋帆走協会の統合にあたっては、日本外洋帆走協会の最後の会長として尽力した。
功労賞	占部 雄三	日本オプティミストディンギー協会の設立に携わり、当初より協会の発展と青少年の育成に多大な尽力をするとともに、日本で開催した3回の国際大会では、副会長として大会を成功裏に導いた。
功労賞	戸谷 壽男	日本の海外外洋レース挑戦の草創期から外洋レースに参加し、そこで培われたスキルと見識を基に、日本におけるマッチレースにも初期から参加。日本ヨットマッチレース選手会を設立、1998年から2013年まで15年の長きにわたって会長を務めた。
功労賞	小田 泰義	30年以上にわたり関西水域・内海水域で活躍、日本ヨット協会と日本外洋帆走協会(NORC)の合併統一時に、NORC 内海支部の役員として新組織の策定に尽力し、日本セーリング連盟設立後は、専務理事として多大なる貢献をした。

優秀指導者賞	笹森 俊夫	永年にわたり青森県を中心にジュニアセーラーの指導育成に携わりながら、国内外のジュニアヨット選手権の開催に尽力し、ジュニアセーラーの競技力向上に輝かしい実績を上げた。
優秀指導者賞	大平 邦夫	永年にわたり福島県いわき市でジュニアセーラーの指導育成に携わりながら、国内外のジュニアヨット選手権の開催に尽力し、ジュニアセーラーの競技力向上に輝かしい実績を上げた。
優秀指導者賞	戸嶋 博之	兵庫県のジュニアセーラーの指導育成に携わりながら、チーム兵庫の国体監督を長きにわたり務めた。ジュニアセーラーの競技力向上に輝かしい実績を上げた。
栄光賞	岡田 奎樹	2023年 男女混合 470 級にて、プリンセスソフィア杯、セーリング世界選手権大会、アジア大会でそれぞれ優勝した。
栄光賞	吉岡 美帆	同上
優秀競技者賞	磯崎 哲也	2023年 男女混合 470 級にて、セーリング世界選手権大会で3位の成績を残した。
優秀競技者賞	関 友里恵	同上
優秀競技者賞	丹羽 巧	2023年 男子 Hansa303 級にて、セーリング世界選手権大会で2位の成績を残した。
優秀競技者賞	鈴木 晶友	2023年 フィニッシュの世界一周レース Globe40 (World Sailing Offshore 登録レース) で3位の成績を残した。
優秀競技者賞	中川 紘司	同上
優秀競技者賞	加藤 重雄	2023年 ILCA マスターズ世界選手権大会で3位の成績を残した。
感謝状	濱口 宝	ハンザクラスのブラインド大会競技支援システムを開発した。
感謝状	西山 明	同上
感謝状	岸本 卓志	同上
感謝状	オランダ 日本人 ヨットクラブ	2023年セーリング世界選手権大会のpara会場で日本チームへの献身的なサポートを提供した。

定期表彰式に出席した受賞者の方々



(敬称略) 前列左から) 大平邦夫、笹森俊夫、戸田節子、戸谷壽男、占部雄三、加藤重雄。
後列左から) 鈴木晶友、丹羽巧、盛田冬華 (磯崎/関 代理)、中川紘司、馬場益弘 (JSAF
会長)



(敬称略) 左から) 丹羽巧、藤井明宏 (オランダ日本人ヨットクラブ)、強力修 (ブライ
ンド大会競技支援システム代理)、馬場益弘 (JSAF 会長)

2023年度 JSAF Class/Club of the Year presented by ENEOS

表彰区分	受賞団体名	受賞理由
地域社会部門	鹿児島オーシャン ヨットクラブ	1989年設立、35年目を迎えるヨットクラブ。地元自治体と協力し、セーリングの楽しさや海の魅力、海洋環境保全の大切さなどを実際の活動を通じて伝え続けている。 活動歴の長さ、延べ15,000人を超える市民の参加、ジュニアから高齢者までの裾野の広さが評価された。
環境部門	一般社団法人 日本スナイプ協会	先進性、凡用性、インパクト、独創性を観点に審査。協会内に環境委員会を設置しSDGs、環境への取り組みを積極的に行っている。 全日本大会では、SDGsアプリの使用や参加者にマイボトルを推奨、ミックス選手権ではCO ₂ 削減効果のあるドローンマーク採用等が評価された。
アクティブ部門	日本VR1クラブ (JVRI)	2020年7月に設立。コロナ禍で直接対面やレース開催が難しい中、ヨットレースの新しい形としてセーラーが集い、現在では年齢・性別・水域・艇種・障がいの有無問わず、270人が登録、活動している。 World Sailing や IOC 主催の国際大会にも日本代表を輩出する活躍が評価された。
ヤング部門	日本オープンスキフ クラス協会	一生涯のライフスタイルとして、セーリングを気軽に楽しみ続けられる環境を日本各地で創り出すために、多くのジュニアにセーリング体験を提供している。 体験試乗会への参加者数の多さ（本年度300人、過去4年間で1200人）、大学ヨット部員の巻き込み、等が評価された。

JSAF Class/Club of the Year presented 2023 by ENEOS 賞受賞者



(敬称略) 左から) 田村厚子 (ENEOS株式会社)、岡田滋敬 (ENEOS株式会社)、
田中葉子 (鹿児島オーシャンヨットクラブ)、杉山武靖 (日本スナイプ協会)、木暮俊貴 (日
本VRIクラブ)、諏訪禎男 (日本オープンスキフクラス協会)、馬場益弘 (JSAF 会長)

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】

日本セーリング連盟広報委員会 kohou@jsaf.or.jp
または 西 朝子 sailingnishi@gmail.com 090-1042-9262

JSAF 公式サイト <https://www.jsaf.or.jp/>